

### Ⅲ 委員会活動

#### 1 学内委員会

##### 1) 委員会および委員一覧

委員会	委員 (◎：委員長、○副委員長)
カリキュラム委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、泉 義雄(教授)、秋元 とし子・瀧澤 直子・中田 芳子・中谷 啓子・望月 好子 (准教授)
教務委員会	◎望月 好子・丹澤 洋子・林 真理子 (准教授)、橘田 節子・新村 直子・吉野 由美子 (講師)、飯室 淳子 (助教)、北室 和茂(事務室員)
学生委員会	◎吉野 由美子・阿部 ケエ子 (講師)、石附 友美・菊池 有紀 (助教)、西山 京子 (係長) (4月1日～9月31日は田邊 梨里子)
現代文明論委員会	◎秋元 とし子・小川 景子 (准教授)、阿部 ケエ子・新村 直子 (講師)、蔵本 文乃・菊池 有紀 (助教)
国家試験対策委員会	◎林 真理子 (准教授)、泉 義雄 (教授)、瀧澤 直子 (准教授)、新村 直子 (講師)、2年生代表：今瀬 繁子 (教授)、小川 景子 (准教授)
国際交流委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、秋山 英二 (室長補佐)、田邊 梨里子 (事務室員)
人権委員会	人権委員：非公開 相談委員：リーダー◎横島 啓子 (准教授)、吉野 由美子 (講師)、西山 京子 (係長)
FD委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、丹澤 洋子 (准教授)、新村 直子 (講師)
倫理委員会	◎飛田 美穂 (学長補佐・教授)、吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子 (総合看護研究施設所長・准教授)、瀧澤 直子 (図書館長・准教授)、横島 啓子 (人権委員会相談委員リーダー・准教授)

##### 2) 各委員会活動

###### (1) カリキュラム委員会

###### A 位置づけ・役割

本学における教育理念を具現化し、時代にあったより良い教育を実践するためカリキュラムに関することについて審議することを目的とし、以下の活動を行う。

- ① カリキュラムの作成に関する事項
- ② カリキュラムの総合的な評価・修正に関する事項

###### B 活動概要

2008年3月の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正をうけて、卒業時における看護実践能力の向上を図るとともに、2007年度に実施した現行カリキュラムの評価結果をもとに「人間性尊重の姿勢」「共感的に関わる力」の重視を継続しつつ、「自由な発想で問題解決する姿勢」「研究的姿勢」の向上をめざして2009年4月の施行を目標にカリキュラム改正に取り組んだ。

指定規則では総単位数 97 単位とのみ指定されているが、指導要領の総時間数 3000 時間 (105

時間増)について考慮し109単位3000時間とし、「成人看護学実習」が90時間少なくなるが、【看護の統合と実践】135時間、【外国語科目】60時間を増加させた。

科目変更に関する主な内容としては、コミュニケーション・対人関係能力を強化するため「ことばと表現」「コミュニケーションと対人関係」、自然科学的な視点から地球・生命・人間を見る力を養うため「地球環境と科学」を新設した。情報化に対応できるよう情報科目の内容変更を行い「情報検索と活用」を新設し、医療情報管理システムについての学習も含めた。国際化に対応しうる能力を高めるため、外国語科目の履修単位を増やすとともに、国際的視野を広める内容である「国際理解とデンマーク看護研修」を自由履修科目から選択必修科目に変更し、統合分野に「災害看護と国際看護活動」を新設した。社会資源を活用できる基礎的能力を高めるよう「社会福祉論」を選択科目から必修科目に変更。フィジカルアセスメント力を高めるためバイタルサイン測定を含め「看護アセスメントⅠ」として科目を独立させた。倫理的判断力の強化として、「看護倫理」を科目として独立させるとともに「生命と倫理」を新設した。成人の特徴を理解し対象にあった看護が展開できる能力の育成を図るため、時間数の減少した「成人看護学実習」は1科目6単位にまとめ、一定期間にわたり継続的な実習を行う方法を取りあげた。統合分野では、知識・技術を統合し看護実践能力を高めるため、「看護のマネジメント」を新設するとともに、「統合実習」は実践に近い形での学習をめざし、全看護学領域の教員が協力しあうことが合意された。

あわせて、実習評価について、段階評価への移行を検討したが、教員の指導体制、実習体制、学生への影響等により合意には至らなかった。

さらに、看護技術に関して2008年2月8日付で厚生労働省より「看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」が示されたことをうけて、従来用いていた『看護技術体験記録』を廃止し、卒業までに到達度に達成できるよう技術習得に向け段階的に学習を進めていくことを目的に『看護技術到達度記録』を作成した。具体的活用方法および実施科目の再調整については次年度の検討課題となった。

### C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月22日(水)	① 改善を意図した改正案の具体化にあたり、カリキュラム改正の基本的方針の確認 ② カリキュラム改正に関する前期委員会の活動計画
2	4月30日(水)	① 新カリキュラムについて
3	5月7日(水)	① 統合実習について
教員 会議	5月14日(水)	① カリキュラム改正についての中間報告
4	5月21日(水)	① 各領域からの検討結果の報告 ② 文部科学省担当者より質問事項の回答 ③ 「看護の統合と実践」の授業科目の検討
5	5月28日(水)	① 新カリキュラムローテーション案について ② 選択科目について ③ 単位数・時間数について ④ 基礎教育科目の科目名変更について

6	6月4日(水)	① 企画調整会議への報告結果 ② 科目名と単位数・時間数および開講時期について最終案の策定
教員 会議	6月11日(水)	① カリキュラム改正案説明会
7	6月25日(水)	①カリキュラム説明会で提出された質疑応答に基づく検討と修正
提案	7月7日(水)	教授会 ① カリキュラム変更案承認
8	8月7日(水)	実習の段階別評価への移行について ① 新カリキュラム実習ローテーションについて
9	9月11日(木)	① 新カリキュラム実習ローテーションを調整 ② 新カリキュラムにおける看護技術教育の目標と考え方 ③ 実習評価
看護系 教員会 議	9月17日(水)	① 実習評価について
10	10月8日(水)	① 新カリキュラム実習ローテーションについて、健康科学部との調整の経過報告。 ② 実習評価について ③ 看護技術教育について
11	11月26日(水)	① 新カリキュラム実習ローテーションの調整 ② 新カリキュラムにおける科目内容調整 ③ 本学の技術教育に関する基本的考え方および「技術体験記録」の変更について
看護系 教員 会議	12月10日(水)	① 技術教育について
看護系 教員 会議	12月25日(木)	① 新カリキュラムにおける技術教育の担当について ② 看護技術教育マトリクス
看護系 教員 会議	1月9日(金)	① 新カリキュラムにおける技術教育の担当について ② 今後の「技術体験記録」の方向性について
拡大 領域長 会議	1月21日(水)	① 新カリキュラムにおける統合領域の科目担当について
12	1月21日(水)	① 2011年度新カリキュラム実習計画および使用病棟 健康科学部との調整会についての報告 ② 拡大領域長会議の報告 ③ 看護技術到達度評価について
13	2月20日(水)	① 看護技術到達度記録(作業部会案)について
看護系 教員 会議	3月26日(木)	① 看護技術到達度記録(案)について ② 07KF・08KF生の看護技術水準と責任科目について ③ 卒業時の到達度に関する実施科目について

## (2) 教務委員会

### A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、2003年度改定された教務委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、教務委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

### B 活動概要

委員会活動は、前年度の活動報告の実施状況と引継ぎ事項を確認し、教務委員会年間活動計画に基づき活動した。小委員会活動としては、昨年度に引き続き「看護技術教育検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」を設け、本学における看護技術教育および安全教育の充実に取り組んだ。

2つの小委員会活動も活発に行われ、年度途中で全教員に協力を求めた事柄および教員対象の報告会などにも、十分な理解協力を得ることができ、委員会活動がスムーズに運営できたと考える。

今年度の活動の概要と次年度への課題について以下に示す。

#### ① 看護技術教育検討小委員会

##### a. 2008年度「看護技術体験記録」の集計・分析結果の報告

前期終了後および全実習終了後に記録を回収し、集計分析を行った。全実習終了後の集計分析結果については、「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告とともに、今年度より新たに報告会をもち、教員間における意見交換を行った。

##### b. 2009年度新カリキュラム導入に伴う看護技術体験記録の検討を行い、学生が実習で体験できる看護技術の許可水準についての一覧を作成した。

##### c. 2008年度 07KF生と08KF生に実施した演習についての調査から演習水準の変更をした。

#### ② 安全教育検討小委員会

「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析を行い、学生の臨地実習における問題と安全対策について検討した。全実習終了後の集計分析結果については、合計2回全体報告会をもち、教員間における意見交換を行った。また、電子カルテ導入に伴う実習指導状況の把握・検討や学生が提出した実習記録の保管・処理を行った。

#### ③ 身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」について

同意確認を文書で行い、本人・保護者へは、新入生オリエンテーション時、学科主任から「同意確認書」に関する説明を行った。

#### ④ 看護学実習オリエンテーションおよび実習病院（東海大学関連病院）との打ち合わせ会の企画・実施

##### a. 3年生対象看護学実習オリエンテーションの実施

##### b. 実習病院との打ち合わせ会

##### c. 次年度の実習計画の立案

#### ⑤ 講義・実習に関する意見の収集と対策について

前期・後期授業終了後、各教員から講義・実習に関する意見を収集し委員会において検討し、後期にはよりよい環境で授業が提供できるようになった。

#### ⑥ 領域責任者を通じて2008年度実施された当該実習の評価を依頼し、全実習評価を一覧表にまとめた。

#### ⑦ 実習要綱総説の見直しと修正

#### ⑧ 次年度への課題

次年度に向けては、さらに授業（講義・演習・実習）が円滑に運営されるよう今年度の活動を継続するとともに、新カリキュラムと旧カリキュラムの学生が同時に学ぶ状況の中で生じる問題

などにも柔軟に対応できるように、大学内の関連部署および委員会が密接に連絡を取り合いながら協働し、委員会活動を推進していく。

### C 委員会開催状況

回	日 時	議 事 内 容
1	4月23日(水)	① 活動目標・計画、役割分担の確認
2	5月23日(水)	① 08KF 生看護学実習に関するオリエンテーションの検討 ② 小委員会活動計画 ③ 教務委員会主催行事についての活動内容の確認・検討
3	6月18日(水)	① 2009年度 実習計画の検討 ② 前期講義・実習に関する意見の収集について ③ 2009年度新カリ用 看護技術体験記録の検討
4	7月23日(水)	① 2009年度新カリ用 看護技術体験記録の検討 ② 06KF 生の看護技術体験記録の回収とチェックについて
5	9月10日(水)	① 前期における講義・実習に関する意見の報告・問題点の検討 ② 前期「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告と今後の対策 ③ 前期の看護技術体験記録集計結果の報告と今後の対策 ④ 2009年度新カリ用 看護技術体験記録検討の方向性確認
6	10月15日(水)	① 「ヒヤリ・ハット」報告用紙の検討 ② 2009年度実習要綱総説の修正および変更点についての検討
7	11月19日(水)	① 2009年度実習要綱総説の修正および変更点についての検討 ② 2010年度実習計画の検討 ③ 学生の顔写真の閲覧について検討
8	12月17日(水)	① 2009年度「同意確認書」について ② 2010年度実習計画の検討 ③ 07KF 生看護学実習オリエンテーションについて ④ 2009年度新カリ用 仮称「看護技術水準の手引き」の検討 ⑤ Campus Navi の追加項目について
9	1月28日(水)	① 07KF 生 看護学実習について ② 06KF 生 看護技術体験記録集計結果報告と今後の対策
10	2月25日(水)	① 07KF 生実習グループ編成、実習オリエンテーション ② 2009年度 実習打ち合わせ会について(日程と資料提出期限) ③ 2008年度 看護学実習評価について ④ 後期における講義・実習に関する意見報告と今後の対策 ⑤ 06KF 生 看護技術体験記録集計結果報告と今後の対策 ⑥ 2008年度「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告と今後の対策
11	3月18日(水)	① 2009年度 看護学実習オリエンテーション(07KF 生、09KF 生) ② 2009年度 実習打ち合わせ会について ③ 2009年度新カリ用 仮称「看護技術水準の手引き」の検討 ④ 小委員会活動計画評価 ⑤ 教務委員会年間活動評価

### (3) 学生委員会

#### A 位置づけ・役割

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている、本委員会はいくまでも学生と共に考え、学生会・学友会と一人一人の学生の主体性を尊重するという方針で臨んだ。

#### B 活動概要

学生生活に関するガイダンスの実施、新入生学生会オリエンテーション及び学生交流会への参加、学生総会の実施の指導、後援会・学生・教職員の三者懇談会への参加、東海大学短期大学（部）スポーツ大会及び懇親会への参加、飛鷗祭運営の指導、選挙管理委員会運営の指導、卒業パーティー企画運営の助言、2009年度新入生学生会オリエンテーション・学生交流会企画運営に向けた助言を行った。

飛鷗祭については、企画・運営について、その都度指導・助言を行い、終了後には飛鷗祭実行委員と学生委員会との合同反省会を行うことで課題を明確にするよう働きかけることができた。学生会活動の根拠は、東海大学医療技術短期大学学生会会則及び東海大学医療技術短期大学学友会会則である。数年間、会則に則った活動がなされていない現状があったため、以下①～③については、重点的に助言と指導を行い、円滑な運営に導くことができた。①5月の学生会総会の開催について（会則第5章第10条）、②代議委員会の活動再開について（会則第8章）、③選挙管理委員会について（会則第9章）。①から③については、今後その活動の重要性を学生が認識し、主体的に活動できるよう助言と指導を継続していくことが課題である。

#### C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月8日（火）	① 2008年度活動について：学生委員会の目的・目標について ② 2008年度活動について：役割担当について ③ 2008年度年間計画について ④ 2007年度からの引き継ぎによる課題の確認と対策の検討 ⑤ 新入生、2・3年生ガイダンスの学生委員会担当内容について
2	8月4日（月）	① 学生会活動の状況 ② 三短大スポーツ大会について ③ 飛鷗祭について（二次企画、同窓会企画など） ④ 2009年度予算について
3	11月11日（火）	① 学生会活動の状況 ② 飛鷗祭についての関わりの振り返り ③ 選挙管理委員会運営について
4	2月24日（火）	① 飛鷗祭反省会および会計報告について ② 選挙管理委員会の活動について ③ 卒業を祝う会について ④ 学生オリエンテーションについて ⑤ 学生会オリエンテーション・学生交流会について ⑥ 2008年度学生委員会活動の振り返り

#### (4) 現代文明論運営委員会

##### A 位置づけ・役割

本委員会は、現代文明論委員会の規定にもとづき、現代文明論の講義編成、運営と成績評価を行う。

##### B 活動概要

規定に基づき活動した。2008年度から新たに現代文明論Ⅰに「デンマークに学ぶ(1)(2)(3)」、現代文明論Ⅱに「創造することの価値」「生きることとスピリチュアリティ」の講義を編成し、学生の反応も良好であった。課題レポートの配点が高いので、レポートの書き方の注意点をまとめ、学生に「評価の視点」として事前に示した。字数も800字から1000字に増やし、より自分の意見が書けるように配慮した。授業評価では、現代文明論Ⅰでは、13～15%の学生が「自分自身で学習するための方法についての説明」「成績評価の基準が明確であったか」「シラバスの内容が自己学習をすすめるのに役立ったか」について改善してほしいと評価していたが、現代文明論Ⅱでは、それらの評価は4～8%へと改善傾向が見られた。2009年度の変更点としては、総長が担当していた「東海大学-建学の精神とその源流」の講義を各大学、短大の学長が講義することになった。

新たな授業方法として、課題レポートをもとに「グループディスカッション」を行い、より学生相互の意見交換を促進し、参加型の授業をめざしていく。「成績評価の基準」については、ガイダンスで、できるだけ明確に伝える。文章の書き方について指導が必要な学生には早めに指導していく。パワーポイントのトラブルに関しては、講師に、パワーポイントのバージョンを確認していく必要がある。

##### C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月5日(土)	① 現代文明論運営委員会の役割と2008年度の運営 ② 2008年度授業構成の確認
2	6月4日(水)	① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会議の報
3	7月2日(水)	① 授業の現状報告 ② 第14回のまとめ
4	7月16日(水)	① まとめのレポート、採点後の話し合い
5	8月6日(水)	① 現代文明論Ⅰの成績評価について ② 受講用紙返却準備
6	9月17日(水)	① 現代文明論Ⅰ授業評価の結果 ② 現代文明論Ⅱの授業運営
7	11月5日(水)	① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会議の報告 ③ 2009年度現代文明論シラバスⅠ・Ⅱシラバス
8	1月7日(水)	① 授業の現状報告 ② 第14回「まとめ」について
9	2月4日(水)	① 現代文明論Ⅱの成績評価について

10	3月4日(水)	① 2009年度、講師依頼文書の検討について
11	3月12日(水)	① 現代文明論Ⅱの授業評価について ② 2008年度の活動のまとめ(委員会報告) ③ 受講用紙返却準備 ④ 現代文明論委員会規定についての審議

## (5) 国家試験対策委員会

### A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。3年指導教員・2年指導教員代表および学生の代表委員で構成され、事務室の国家試験担当と連携協働しながら、国家試験に全員合格することを目的とし支援をする。尚、委員会報告については、適宜教授会で報告する。

### B 活動概要

学生の国家試験対策委員と連携しながら第98回看護師国家試験の受験対象学生の全員合格をめざし、前年度の活動報告の結果を踏まえつつ、国家試験対策ガイダンス、学習教材の選択、グループ学習および個別指導、補習講義内容と実施時期および期間など計画し実施した。また学生たちの学内の成績および模擬試験学習の結果を踏まえ弱点科目について個別指導を行うなどの学習支援を行なった。

下級生対策としては、学生の国家試験対策委員と連携協働しながら、模擬試験の実施、業者ガイダンス、3年生国家試験反省会など行った。また学内の成績結果および模擬試験を踏まえ自己学習支援を行った。

既卒者への対応は、事務室の国家試験担当者を通して補習講義日や模擬試験の日程等の情報を提供した。

その他、学内模試の円滑化を図るために、学生および教員・事務の役割を明確にするために、実施手順書を作成し活用し、運営した。国家試験の受験に際しては、事務室との連携が重要である。今後も、事務職員と教員が役割分担を確認しながら連携していく必要がある。

### C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月1日(木)	① 2008年度の活動方針と計画立案 ② 委員会の構成と役割の確認 ③ 具体的な取り組みについて ④ 学生への情報提供のあり方 ⑤ 国家試験対策についてのオリエンテーション ⑥ テキストおよび参考書類の選定について ⑦ 模擬試験について ⑧ 補講およびグループ学習の考え方 ⑨ 低学年対策について
2	4月11日(金)	① 3年生の成績の実態について ② 要学習支援者のグループ編成と支援方法について ③ 模擬試験監督の担当および事前準備・事後の処理について



3	4月22日(火)	① 3年生の活動計画および進行状況について ② 模擬試験の実施状況 ③ 図書購入について ④ 小グループ編成および担当教員について ⑤ 8月の補講および業者模試の場所について
4	5月12日(月)	① 2・3年生の活動計画および進行状況について ② 小グループ編成の最終決定の確認 ③ 模擬試験に関する教員・学生の役割に関するマニュアル作成について
5	8月27日(水)	① 3年生の活動計画および進行状況について ② 学内および業者模試の結果と対策
6	1月13日(火)	① 3年生の今後の計画の確認 ② 業者模試の結果と対策 ③ 受験票配布日の日程と内容 ④ 低学年の取り組みについて ⑤ 3年生の委員の反省会参加などについて
7	2月24日(火)	① 学生の国家試験対策委員の活動評価・反省会
8	3月11日(水)	① 今年度の評価・次年度への引継ぎ内容の確認

## (6) 国際交流委員会

### A 位置づけ・役割

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の航海研修およびハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。

### B 活動概要

前年度との変更点として、経費および利便性を考慮し宿泊をホテルからダンホステル（ユースホステル）に変更した。

2008年度デンマーク看護研修は、体調不良者が複数出たものの、現地スタッフおよび地元の方々の配慮と協力により予定通りに全プログラムを修了できた。アンケート結果によると学生の評価は例年同様の高かった。ダンホステルは利便性、設備、食事、価格を総合すると非常に良く、好評だった。電車移動は荷物の問題があり困難性が高いためバス移動を再検討する必要がある。

今年度、航海研修・ハワイ語学研修参加者がなかったことから、次年度は参加の呼びかけをより積極的に行う。

### C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5月8日(月)	① 第34回デンマーク看護研修の進行状況の報告 a 募集状況 b 費用について c 奨学金について d 昨年度との変更点 e 事前打ち合わせ日程

		f 面談日 g 通訳
2	12月24日(水)	① 2008年度デンマーク看護研修報告・評価 a 経過報告 b 会計報告 c アンケート結果報告 d 評価および改善点の報告 ② 2009年度デンマーク看護研修に向けて
3	3月30日(月)	① 2009年度デンマーク看護研修計画について経過報告 ② その他

## (7) 人権委員会

### A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。学生の教学上（教育、研究及び課題活動を含む学生生活）、業務上等の関係を利用してなされるセクシュアル・ハラスメント防止と被害者の救済を行う。

### B 活動概要

セクシュアル・ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を設置する。相談委員名については、学生ガイダンスおよびキャンパスナビに記す。2008年度の苦情・相談はなかった。

### C 委員会開催状況

定例会議は実施せず、前期および後期に各1回相談状況の確認をおこなった。

## (8) FD委員会

### A 位置づけ・役割

大学設置基準・短期大学設置基準の改正により、2008年4月から大学・短期大学におけるFDが義務されたことをうけ、本学でも今年度よりFD委員会が設置された。

役割：「教員の個々人の教育・研究能力の向上や、教育・研究支援の充実を図る」ことを支援するための研修会の企画・運営を行う。

活動目標：教員の資質（教育・研究）の向上を支援する

### B 活動概要

今年度、3回の教員研修会を企画し実施した。

a 第1回 教員の研究力向上を図り、研究活動の活性化と質の高い研究の増加、それによる教育への還元を期する目的で、教員の研究力向上のための研修会を開催した。

テーマ：「科学研究費の補助金の取得に向けてー研究計画書の作り方と使い方ー」

内容：科学研究費補助金制度の概要と申請のポイント

講師：東海大学理学部物理学科 八木原 晋 教授

日時：2008年6月18日(水)

出席：教員20名、職員2名

b 第2回 2007年度の学生の講義評価アンケートにおいて、「小児臨床看護Ⅰ」の科目で東海大学医療技術短期大学ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞教員による模擬講義を実施。

テーマ：「私が大切にしていること」～病気の子どもを理解する～

内 容：「小児臨床看護Ⅰ」の一単元、第10回病気の子どもの看護③小児がんの講義内容

講 師：小児看護学 橘田 節子 講師

日 時：2009年2月25日（水）

出 席：教員19名

c 第3回 今後に向け、高等教育および看護教育の現状を鑑みた組織的長期計画的FDのあり方とその具体的方法について示唆をえることを目的として企画・実施した。

テーマ：「本学におけるFDの具体的な取り組みについて考える」

内 容：講演1 灰田 宗孝 学長：「本学のFD活動への期待」

吉田 礼子 学科主任：「本学のFD活動の現状と課題」

講演2 聖マリア学院大学看護学部 竹元 仁美 准教授：「聖マリア学院大学におけるFaculty Development」

ディスカッション：本学の現状からの課題を踏まえFDで取り組む内容を明らかにする

日 時：2009年3月6日（金）

出 席：午前講演－教員21名、午後講演－教員20名、ディスカッション－教員18名

まとめと課題 委員会として初めての活動で、構成メンバーも2名と少なく試行錯誤であったが、FD活動への教員の意識は高く、3回の教員研修会には多数の参加を得た。今年度は、単発的な企画だったが、今後は組織的長期計画的活動が望まれる。次年度はFD委員会規定を制定し、活動内容を吟味し企画・運営していく必要がある。

## C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月14日（月）	① FD委員会の役割、活動目標、活動計画について ② 第1回教員研修会：科研費の取得に向けての運営について
2	6月25日（水）	① 第1回教員研修会のまとめ ② 第2回と第3回教員研修会の企画について
3	7月16日（水）	① 他看護系大学におけるFDの活動状況についての情報収集と確認 ② 「本学における組織的長期計画的FDのあり方とその具体的方法の検討」の企画
4	10月10日（金）	① 「本学におけるFDの具体的な取りくみについて考える」の企画
5	2月16日（月）	① 第2回教員研修会：2007年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞者による講義の運営について ② 第3回教員研修会：「本学におけるFDの具体的な取りくみについて考える」の運営について
6	3月19日（木）	① 第3回教員研修会のまとめ

## (9) 倫理委員会

### A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

## B 活動概要

本委員会は2年目を迎え、申請書の提出手順、委員会開催日などにつき再確認した。委員会開催は9回、審査件数は学内6件、学外1件であった。2008年度の委員会活動の評価および反省点は、以下の通りである。

- ① 本委員会の活動は、本学の研究活動を倫理的側面より支えていることに対しては評価されることである。しかし社会情勢を鑑みるに、倫理面に止まらず、研究の妥当性・先行研究との相違点・社会に対する貢献など多くを本委員会に求められる。そこで、「東海大学医療技術短期大学研究倫理指針」の基本原則に基づく具体的解説集の作成が必要である。
- ② 申請者の本委員会への参加は、現状では再申請以降であり初回審査は委員会メンバーのみによる書類審査となっている。このような審査方法は、申請者および委員会メンバー両者に不都合・負担を来していることより、2009年度からは、初回申請時から申請者の本委員会への参加とする。
- ③ 倫理委員会メンバーの研修が必要であるが、この点に関しては、2009年度には伊勢原キャンパスで実施される研修に参加予定である。

## C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	7月23日(水)	① 研究計画に対する倫理審査2件：2件とも再審査となる。
2	7月29日(水)	① 研究計画に対する倫理審査1件：再審査となる。
3	9月3日(水)	① 研究計画に対する倫理審査1件：承認(可)される。
4	11月19日(水)	① 内規の変更について：審査の対象となる研究は、「研究対象者が本学学生および本学教職員であるもの」に限っているが、研究代表者が本学所属者である場合は全て審査の対象となるべきである。 ② 研究計画に対する倫理審査1件：再審査となる。
5	12月13日(水)	① 研究計画に対する倫理審査1件：再審査となる。
6	1月28日(水)	① 内規付帯事項に関して：内規付帯事項の周知徹底 ② 審査回数に関して：再々審査結果をもって終了とする(2009年度から再審査までとする)。 ③ 研究計画に対する倫理審査3件：3件とも再審査となる。
7	2月25日(水)	① 研究計画に対する倫理審査4件：1件承認(可)、1件審査不能(学外者の手続不備)、2件が再審査となる。 ② 臨時倫理委員会開催について
8	3月9日(月)	① 研究計画に対する倫理審査3件：2件承認(可)、1件が再審査となる。
9	3月18日(水)	① 研究計画に対する倫理審査1件：承認(可)される。 ② 2009年度倫理委員会の開催予定に関して：年間予定表作成 ③ 倫理審査申請の手引き作成に関して：2009年度前期に配布予定